

令和3年度 文部科学省英語教育推進改善プラン研究協力校

山口県防府市立右田中学校
英語科公開研究授業



CLILについて

CLILは、Content and Language Integrated Learningの略称です。教科科目やテーマの内容(Content)の学習と外国語(Language)の学習を組み合わせた学習(指導)の総称で、日本では、「クリル」、あるいは「内容言語統合型学習」として呼ばれ定着しつつあります。主に英語を通して、何かのテーマや教科科目【数学(算数)、理科、社会、音楽、体育、家庭など】を学ぶ学習形態をCLILと呼ぶ傾向があります。

CLILの主な特徴は、学習内容(content)の理解に重きを置き、学習者の思考や学習スキル(Cognition)に焦点をあて、学習者のコミュニケーション(Communication)の育成や、学習者の文化(culture)あるいは相互文化(Interculture)の意識を高める点にあると言えるでしょう。

【日本CLIL教育学会HPより抜粋】

令和3年12月17日(金)

令和3年度 英語教育推進改善プラン 右田中学校研究主題

相手を意識しながら、やりとりをたのしむ生徒を育てる

～CLIL（内容言語統合型学習）とCAN-DOの5つのCで『つながる』言語活動の工夫～

日 程

12:35～12:55 受付

13:10～14:00 公開授業

授業者：英語教育推進教員 牧野 壽子

山口県観光スポーツ文化部国際課国際交流員 Tina Sato

NEW HORIZON1 「Think Globally, Act Locally」

～SDGs達成に向けて、右田のために自分にできることを考動しよう～

14:10～14:20 開会行事

14:20～15:00 研究協議

15:00～16:00 指導講話

「学習指導要領の目標を言語活動として実施し、評価するための基本的な考え方」

講師：上智大学 名誉教授

公益財団法人 日本英語検定協会 会長 吉田 研作 様

16:00～16:10 質疑・応答

16:20～16:30 閉会行事

※本研修会は、対面参加とオンライン参加（主に県外）を同時に行うハイブリッド型研修会となります。

※対面参加の方は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、検温、換気、手指消毒、マスクの着用にご協力いただけますようよろしくお願ひいたします。

第1学年2組 英語科学習指導案

1. 単元名 NEW HORIZON1 Unit9 "Think Globally, Act Locally"

2. 単元設定の理由

国際交流授業において、生徒が初対面の外国人とやりとりした時のことである。英語で自分の思いが伝わったことへの喜びや、コミュニケーションの楽しさを感じた生徒が多い反面、相手の情報を引き出す過程において、咄嗟に質問が出てこなかつたり、対話が続かず不自然な間があいてしまつたりと、即興的なやりとりの難しさを感じる場面があった。しかし生徒の感想の中には、「相手への質問をもっと考えて工夫したい。」や、「これから授業や生活の中で自分から挑戦して、他の国のことでもっと知りたい。」と言語だけではなく、コミュニケーションの内容に注目し、自らの生活とつなげようとする前向きな記述が多く見られた。本学級はメタ的にふり返り次の学習につなげができる生徒が多く、表面的な演習を繰り返すよりも、自らの問いを、比較的長いスパンの中で考えを巡らせながら深めていく学びを好む傾向がある。また入学当初から自分の意見を他者に伝える際に過度に間違いをおそれてしまうものの、集団として1つの課題に対して意見交換をしながらお互いの考えを深める、学びの過程をたのしめるような潜在的可能性をもっている。authenticな教材に触れる経験を通して、「正解のない題材」について語ることの面白さに気づいた生徒は、ただ教科書にある形式的な言語知識を使うことだけに終始するのではなく、日常生活と学びをつなげて思考したり、自分の考えを他人に発信したりしながら、英語を使って「リアルな社会と関わってみたい」と思いはじめている。

本単元は社会的話題である SDGs をコンセプトとして、世界の問題から身近な問題につなげ、その解決に向けて自分が地域から行動していきたいと思うことについて考えを伝えあうものである。ここで扱う不定詞の名詞的用法 want to, need to, try to は、自分の意志や思いを伝える発信語彙にあたる。しかしながら、日本における文化的背景や、はつきりと自分のしたいことについて発言することを苦手としている生徒が多い中で、このような社会問題について語らせる際には、一般的に望ましいとされることをただ述べあう活動に終始し、高次的知識につながらないことが多い。そこで山口県のプラスチックゴミ問題を取りあげ、マイクロプラスチック実験などの教科横断学習を行ったり、CIR（国際交流員）や地域の方との関わりをもつたりして、SDGs を自分の身近なこととして意識させることで、世界の問題は自分の地域の問題でもあると捉えさせられるのではないかと考えた。また実際の場面を想定した言語活動では「正解のない題材」を通して多様な考えを生徒同士で共有したり、教材の一部として写真や動画を使ったりして scaffolding をていねいに行うことで、即興的な場面であっても間違いをおそれずに自分の考えを表出しやすいのではないかと考えた。単元末には、ポスターセッションで練られた自分達の作品を校内や地域の施設、学校のホームページに掲載するなど、社会に発信する場をつくることで、内容と言語、自分と社会の「つながり」を感じさせることのできる教材であると考える。

生徒が自己の課題を達成するためには、CLIL(内容言語統合型学習)をもとに授業設計を計画し、題材内容について目標言語を使って学習するというだけでなく、CAN-DO リストで設定した言語のゴールに向けて、4つの C、Content (内容), Communication (言語), Cognition (思考), Culture/Community (協学) を統合させながら、生徒自身が主体的に言語活動に取り組める手立てを構築することが有効であると考えた。単元末に目指したいゴールの姿は、ティーチャートーク等のモデル対話を単元の初めに提示してイメージをもたせるとともに、生徒自身が自己の学びを分析できるように作成したループリックを手元に持たせ、自分自身で立てた目標に向けて1時間ごとにふり返りができるようにする。また生徒一人ひとりに対して、内容面と言語面それぞれへのフィードバックを丁寧に行い、難しい課題に対して自信を失わずに取り組めるようにすることや、生徒のふり返り記述から考察を繰り返すことで、教師自身が自己の指導改善に生かすことを大切にしたい。それぞれの学習活動においては、低次思考力（暗記・理解・適用）と高次思考力（分析・評価・創造）のバランスを計画的に配置して、自分たちの学習活動が地域社会につながるビジョンを生徒同士で共有する。そして「正解のない課題」に対して英語を使って議論し、他者とのコミュニケーションを通して自分の考えを再構築できるように、ことばを紡ぎながら、彼らの視線の先にある「出口の情意」をともに目指したい。

3. 単元の目標

- 不定詞（名詞的用法）や〈look+形容詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。
自分がしたいことについて不定詞を用いてたずねたり、相手からの質問に答えたりすることができる。（知識及び技能）
- 地域の環境問題についてお互いの考えを共有するために、適切な質問をしたり、情報を加えて応答したりしながら、やりとりを継続することができる。（思考・判断・表現）
- 地域の環境問題についてお互いの考えを共有するために、適切な質問をしたり、情報を加えて応答したりしながら、やりとりを継続しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

4. CAN-DO と CLIL の授業設計

右田中・右田小・玉祖小CAN-DOリストにおける到達度目標（1年）

- ・社会的な話題について相手を意識してお互いの考え方をたずねたり答えたりしながら対話を続けることができる。（Spoken/Interaction）

Content 内容	Communication 言語	Cognition 思考	Community/Culture 協学
Declarative knowledge (教科知識) ・SDGs の17のゴールの 12.Responsible consumption, production 14.Life Below Water の現状について、推測しながら映像や新聞、インターネット等から知識を得る。	Language knowledge (言語知識) ・関連語彙(SDGs) ・表現(助動詞 want to/need to/try to)	LOTS (低次思考力) ・世界で起こっている水問題を理解する。 ・リーディング教材を応用する。	Cooperative learning (共同学習) ・ペア ・グループ ・一斉

Content 内容	Communication 言語技能	Cognition 思考	Community/Culture 協学
Procedural knowledge (活用知識) ・防府市右田地区周辺のSDGs関連問題について、これからの社会がどうあるべきか、自分達にできることを考える。	Language skills (言語知識) ・4技能 (聞く/読む/話す/書く) ・メモをもとにした発表/ディスカッション/やりとり	HOTS (高次思考力) ・地域の海洋プラスチックによる現在の汚染状況について、実験データ等をもとに分析する。 ・課題解決のための取組、対策を評価する。 ・ <u>自分の考えについて論じ、課題解決に向けて持続可能な取組を創造する。</u>	Global awareness (国際意識) ・地域におけるSDGsに向けた取組を考案し、持続可能な取組に目を向ける。

5. 評価規準（話すこと【やりとり】）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 不定詞（名詞的用法）や look+形容詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。（知識） 不定詞（名詞的用法）や look+形容詞の理解をもとに、したいことやする必要のあること、人やものの様子についての話し手の視覚的な判断について、理解したり伝えたりする技能を身につけている。（技能） 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の環境問題について友達とのやりとりを通してお互いの考えを共有するために、自分が地域のためにしたいと思うことや、必要だと思うことについて、説明したり、たずねたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の環境問題について友達とのやりとりを通してお互いの考えを共有するために、自分が地域のためにしたいと思うことや、必要だと思うことについて、説明したり、たずねたりしようとしている。

6. 自己内省ループリック（やりとり）

	評価項目			
		A	B	C
言語	1 英語らしい発音で話しているか。			
	2 自然な音のつながりがあるか。			
	3 単語が適切に使われているか。			
	4 表現が適切に使われているか。			
内容 (思考)	5 地域の課題解決のために何をしたいか、何をする必要があるのかなど、自分の考えを話しているか。			
	6 なぜそう思うのか、理由や具体例を話しているか。			
	7 相手の考えを引き出す質問をしているか。			
	8 相手からの質問に適切に答えているか。			
協働	9 聞き手、話し手としてアイコンタクトを意識しているか。			
	10 相手が言ったことが理解できない時にたずね返しているか。			
	11 語尾を繰り返したりコメントをしたりして、相手がもっと話してくれるよう工夫しているか。			
	12 共感的、協力的な態度で応答しているか。			
自分の考えに影響を与えた友達や質問やコメントなど				

7. 解答形式と思考分類

	暗記 Memorizing	理解 Understanding	適用 Applying	分析 Analyzing	評価 Evaluating	創造 Creating
Word	Fill in the gaps					
Sentence		Define the terms				
Discourse			Explain what you think you can do to solve the local issues		Discuss the better ideas of the SDGs actions in local area	Writing report

8. 単元の『指導と評価』の計画

時間	目標…■ 言語活動…●その他の活動…○	話すこと [やりとり/発表]			備考
		知	思	主	
1 U9 S0	<p>■ 単元全体で学習する内容の概要を捉えることができる。学習を通して目指す姿や、単元末のパフォーマンス評価基準を使って、学習の見通しをもつ。 (主な言語材料: want to, what, where,)</p> <p>① 導入として、小学校で使ったイラストを使ったティーチャートークを聞かせて小学校での学びを想起させ、自分が行きたい国やそこでしたいと思うことに関して want を使ったやりとりをさせる。</p> <p><u>② 写真や映像を使いながら oral introduction やリスニングを通して、単元全体の概要をつかませる。</u></p> <p><u>③ 世界の子供たちの写真や海洋プラスチック問題の映像を見て、世界や日本の現状について知り、どう思うか生徒同士でやりとりし、全体で共有する。</u></p>	○		○	・言語活動については形成的評価(指導の改善に生かす評価)を毎時間行う(左記○印) 活動させているだけにならないよう留意する。
2 Story1	<p>■ 自分が大事にしている毎日の「my rules」を友達に伝えることができる。</p> <p>① 戸田先生とメグの対話で話されている話題について聞き取り、その後どのような英語表現(form)が使われていたかインタラクションを通じて気づかせる。またその後パターンに気づかせる。</p> <p>② 聞き取った表現を使い (try to) 生徒同士で対話をさせる。</p> <p><u>③ 相手に自分が大事にしていることを知ってもらうために、my rule を理由とともに伝えあわせる。</u></p> <p>④ 友達との対話をノートに書かせて、発話の正しさをチェックして次時の活動につなげる。</p>	○	○	○	・ 単元末のパフォーマンステストに向けて、帯活動で前時に学習した文型(主に不定詞)を使いながら、自分が体験したことについてやりとりや発表をさせる。
3 Preview	<p>■ 将来に関するスピーチを正しく聞き取り自己表現につなげる。</p> <p>① スモールトークで前回対話した内容でほかの友達と対話をする。(録画分析)</p> <p>② 教科書本文を聞かせてメグのいとこの生活の様子やケニアでの医療支援の様子を絵や写真を使いながら</p> <p><u>④ 医療支援をする人々の写真を使いながらケニアの現状を紹介し、SDGs のテーマのひとつである、「6. Clean Water And Sanitation」について自分の考えを友達とやりとりさせたり、発表させたりする。</u></p>	○		○	
4 Story1	■ 読み取ったり聞き取ったりしたことについて自分の考えを話したり書いたりすることができる。(主な言語材料: want to help/ try to do)	○	○	○	

	<p>①スマートトークで前時に確認した表現や語句を使って自分がしたいことについて対話をさせる。</p> <p>②リスニングポイントを与える、本文を聞かせる。</p> <p>③本文で使われている表現から、意味を気づかせたりパターンを予測させたりする。</p> <p>④本文表現の <u>It's sometimes difficult.</u> とは何を意味しているのか、またなぜ難しいのか、やりとりさせる。</p> <p>⑤話した後で発話内容をライティングさせる。</p>				・学習の振り返りは毎時間行い、ループリックをもとにした自己目標に
5 Story2	<p>■自分が何をしたいのかたずねたり理由とともに答えたりすることができる。 (主な言語材料 : what do you want to ~?)</p> <p>①前時の内容を想起させつつ、本時のダイアログを使いながら oral introduction を行い教師と生徒のやりとりを行う。</p> <p>②リスニングポイントを与えて本文内容を聞きとる。</p> <p>③本文を正しい発音やイントネーションで音読させる。</p> <p>④既習表現や新出表現を使って、場面設定を変化させて色々な立場に立たせながら自分がしたいことについて友達とやりとりさせる。また対話の中で理由をたずねる。</p>	○	○	○	対する振り返りをさせる。 ・1~8時までは記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の
6 Mini Activity	<p>■行きたい所とそこでしたいことなど、おたがいの考えをたずねて表にまとめ、レポートする。</p> <p>①前時に学習した本文を音読した後、モノローグにしてペアに伝えあわせる。</p> <p>②What do you want to do? を使ったやりとりのパターンプラクティスを通して定着をはかる。</p> <p>③自分が<u>行きたい国</u>について理由とともに友達にインタビューしてたずね、その結果を表や図に表して発表／やりとりさせる。(ロイロノートで録画提出)</p>	○	○	○	活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。
7 Story3	<p>■人やものの様子を説明するために、視覚的な判断で伝えることができる。 (主な言語材料 : look / need to / collect water)</p> <p>①前時に学習した表現を使って、行きたい場所とその理由やそこでしたいことについてやりとりをさせる。</p> <p>②新出語句の発音、意味、用法を確認させる。</p> <p>③リーディングポイント「なぜ水を川から運んでいるのか」をもとに本文を読ませる。</p> <p>④絵本のウミガメがクラゲと間違えてレジ袋を食べてしまうイラストや写真を使いながら、<u>look</u> を使いカメにはレジ袋がどのように見えるのか、またその事実についてどう思うか自分の考えを言ったり理由をたずねたり答えたりする。</p>	○		○	・単元の終わりに話すことの評価の総括として、パフォーマンステスト

8	<p>■映画「plastic ocean」の映像を視聴し、世界や日本における海洋プラスチック問題について知り、考えを伝え合う。(主な言語材料:think, want to, try to, plastic, durable, terrible, problem…)</p> <p>①海洋プラスチック問題に関する動画を視聴し概要をとらえるとともに感想をペアやグループで伝え合う。</p> <p>②グループで、インターネット等を使って海洋ゴミ問題について調べ、得られた情報を共有する。</p> <p>③調べた情報をもとに考えたことをやりとりし、その後発話内容をライティングさせる。</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	で記録に残す評価を行う。 (左記の●印)生徒と評価を共有して単元の学習にはいってい
9 (本時)	<p>■地域の課題解決のために作成した啓発ポスター画像等を使いながら目的に応じてお互いの考えをたずねたり答えたりする。</p> <p>(主な言語材料 : think, want to, try to, need to, reduce, plastic, etc…)</p> <p>①CIRのスピーチや JTEとのやりとりを聞き、必要な情報を捉えさせる。</p> <p>②目的場面状況を明確にしたうえで、自分が伝えたい内容について個人、ペア、グループで考えさせる。</p> <p>③目的に応じて自分が起こしたいアクションについて友達同士で説明したりたずねたりさせる。</p> <p>④目的を達成するためにどのようなことを伝え合ったのか問うことで、内容と言語の適切さについて考えさせる。</p> <p>⑤生徒同士、教師対生徒で即興的にやりとりさせる。</p> <p>⑥③の活動について、伝えた内容や言語についてふり返らせ、教師からフィードバックを与える。</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	るため、生徒同士の相互評価や録画分析を通して自己調整を図れるようになる。
10	<p>■前時にやりとりした内容をふまえて自分の考えをまとめ、書くことができる。</p> <p>①前時までに使用した資料をもとに自分の考えをまとめてレポートを書く。</p> <p>②振り返りながら個人一人ひとりに適切にフィードバックをする。</p>	<input type="radio"/>			
後日テスト	<p>■相手を意識しながら目的に応じて自分の意見を伝えることができる。また内容に沿った質疑応答の場面で即興的に答えることができる。</p> <p>①目的に応じて必要な情報を取捨選択させる。</p> <p>②自分の考えを理解してもらうために、相手を意識しながら、自分の意見を伝えさせる。</p> <p>③教師からの質問に即興で答えさせる。(録画記録)</p> <p>※言語使用の正確性は徐々に高まるということを十分考慮したうえで、知識技能の評価を実施する。</p>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	

9 単元末のパフォーマンステスト

技能	Spoken Interaction
CAN-DO	相手を意識して、社会的な話題についてお互いの考えをたずねたり答えたりしながら対話を続けることができる。
タスク	与えられた情報を参考にしながら、相手からの質問に対して、自分の意見を適切な理由とともに伝える。
準備物	配付用のカードと iPad を準備してテスト前に配付する。すでに配付した採点基準を再度確認して録画の説明をした後で、以下のカードを渡す。
形態	<p>内容の難易度を鑑み、今回は先生とのインタビュー形式とする。</p> <p>生徒が環境に関連づけて考えることのできる話題を取り上げ、意見と理由を伝える。</p> <p>対話開始と同時に録画し、2分間でやりとりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>あなたの市では、来年から給食の牛乳を紙パックに変えよう検討しています。現在学校では、生徒の意見を取りまとめて市の担当者に伝えるため、生徒から意見を聞いています。あなたは、校内の検討委員会のメンバーの1人です。生徒を代表して、あなたの意見とその理由を先生に伝えてください。</p> <p>牛乳 : bottled milk 紙パック牛乳 : milk carton</p> <p style="text-align: right;">※カードを読み終わったら顔を上げてください。</p> </div> <p>(例)</p> <p><u>Which do you want to use, bottled milk or milk carton?</u> <u>I want to use</u> bottled milk. <u>/I want to use</u> milk carton. <u>Why do you think so?</u> <u>Because</u> we can reuse the bottles. <u>/ Because</u> we can recycle paper and reuse the straws. How do you reuse them? I wash bottles. <u>/I reuse them</u> in art class. <u>Please tell me more.</u> I make sculptures and so on. <u>Where do you want to reuse them at school or at home?</u> <u>I want to reuse</u> them at school. <u>Why do you want to reuse them?</u> <u>Because I don't want to make</u> more trash.</p> <p>・生徒が黙ってしまった時には、直前に言ったのと同じ言葉をゆっくり繰り返したり、それを言い換えたりして発話を引き出そうとしてみる。それを試みて発話がない場合は次にすすむ。 ・生徒の発話が自発的に出るか見るために、教員は次の発話をする前に5秒待つ。 ・話の途中でも2分後に会話をストップして、2分間の内容で評価する。 ・CEFRA1レベルととらえ、ループリックに沿って評価する。</p>

10 パフォーマンステストにおけるルーブリック

	A	B	C
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 語句の発音が正しく、音のつながりが自然である。 語彙や表現が適切に使用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発音や表現に多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> 発音や表現に誤りがあり、理解することが難しい部分が多い。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 課題に沿った意見と、その理由を適切に話している。 具体例などの情報を加え、一貫性のある主張をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に沿った意見と、その理由を簡単に話している。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に沿った意見を、簡単に話している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 相手を見ながら、自然な表情で話している。 相手の言ったことが理解できない時に聞き返すなど、対話を継続する工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手を見ながら、共感的・協力的な態度で応答している。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手を見ずに下を向いている。

11 参考文献

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語編」 文部科学省

「指導と評価の一体化」ための学習評価に関する参考資料【小学校 外国語】 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「指導と評価の一体化」ための学習評価に関する参考資料【中学校 外国語】 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「指導と評価の一体化」ための学習評価に関する参考資料【高等学校 外国語】 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「CLIL 内容言語統合型学習 第1巻原理と方法」 渡部良典/池田真/和泉伸一 共著

「CLIL 内容言語統合型学習 第2巻実践と応用」 和泉伸一/池田真/渡部良典 共編

「CLIL 内容言語統合型学習 第3巻授業と教材」 池田真/渡部良典/和泉伸一 共編

「フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語授業」 和泉伸一著

「小学校英語「五領域」評価事例集」 文部科学省教科書調査官 池田勝久編

◎1月22日（水）山口県瀬戸内海環境保全協会主催研修会「ふるさとの川セミナー」にて、右田中学校1年生のマイクロプラスチック調査の授業での様子が、山口県環境保健センター専門研究員より紹介される。

◎生徒の作成した啓発ポスターを地域の公民館や自治会掲示板、商店などに持参して、（教員、作成者、地域コーディネーターの方で）掲示予定である。

◎生徒のメッセージビデオやポスター等は、右田中HPにアップロード予定である。

12 本時の学習指導

- (1) 主眼 友達とお互いの考えを共有するために、やりとりを通して自分がしたいことを説明したり相手からの質問に答えたりすることができる。(思考・判断・表現)
- (2) 準備 パソコン、iPad、スピーカーやスクリーン等のICT機器等
- (3) 授業の過程

学習及び学習活動	生徒の反応	教師のてだて
1. ウォームアップ	・楽しみながら教師や生徒同士でやりとりするだろう。	・いつもどおりの雰囲気で全員が授業に臨めるようにする。
2. 課題の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・全てを理解するのは難しいが、キーワードのみ聞き取れる生徒がいるだろう。 ・聞いたことをもとに、本時の活動について想像をめぐらせるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図表等を効果的に使ったり友達同士でキーワードを確認させたりすることで、必要な情報を捉えられるよう支援する。 ・CIRとのやりとりを通して内容や英語表現に気付かせ、本時の課題を確認させる。またそれぞれ自分の目標を自己決定させる。
パートナーシップを結ぶためにお互いの考えを伝えあうことができる。		
3. 内容と表現の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい内容やその表現について、個人、ペア、またはグループで考えるだろう。 ・やりとりに不安があり、うまく話せない生徒や、まちがいをおそれて声が小さくなる生徒がいるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人やペアで考えさせる時間をとり、必要に応じて辞書、ロイロノートの資料集等を使ってもよいことを伝える。 ・デザイン画像や必要なキーワード等をメモしても良いことを伝える。また間違いをおそれずに伝えようとする大にして、不安なく活動できるよう支援する。(scaffolding1)
4. 意見交流	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 右田の課題 1. プラスチックの削減 2. フードロス 3. 気候変動 4. 排気ガス 5. 節電 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・即興的なやりとりが苦手で、活動が止まる生徒がいるだろう。 ・言われていることが理解できない生徒がいるだろう。 ・スマーズだが、同じ内容を繰り返すだけの生徒がいるだろう。 ・伝えることに精一杯で、相手を意識できない生徒がいるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで協力しながら活動させることで、自分が活躍できることを少しずつ増やして自信をつけさせるように支援する。(scaffolding2) ・やりとりのストラテジーを意識させる。難しいペア同士については個別に支援する。 ・ステッカーを有効に使い、中間指導では、目的に応じた適切な表現について考えさせる時間をとり、全体で共有する。 ・相手の意見を熱心に聞きリアクションをとっている生徒、自分の言葉で積極的に伝えようとしている生徒に注目し、活動の活性化を図る。 ◇グループの中での取り組みの様子を見とる。 (思・態：活動の観察/録画分析)
5. 全体発表	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張して手を挙げることができない生徒、手を挙げる生徒それぞれいるだろう。 ・気づきや、自分の考えを友達と伝え合うだろう。 ・自分の周りのパートナーシップについてさらに思いを巡らせ、自分の考えを友達に伝えたくなるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは主体的に発表しようとする生徒がいるか観察し、発表へつなげるようする。 ・生徒同士のやりとりの後で、即興的にCIRから簡単な単語を使った質問をして答えさせる。 ・発表させた様子から、言語表現、内容の適切さ、態度等、よい点を中心に気づきや意見を表出させて全体共有をはかる。 ・必要に応じた母語使用(translanguaging) ・適切な表現について気づいたことを確認した後で、自己目標について関連させた問い合わせることで、自分と社会とのつながりに気付かせる。(活用知識)
6. 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返り、感想をそれぞれペアで伝え合う。その後リフレクションシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業について振り返り、ペアでやりとりさせる。 ◇内容面と言語面それぞれの振り返りができるようにする。(態：ワークシート)

評価

友達とお互いの考えを共有するために、やりとりを通して自分がしたいことを説明したり答えたか。(思・判・表)